

ICAN Monthly Report 12



街頭募金ボランティア

ボランティアと同じ目線で、活動をつくる

<MY アイキャン事業：インターン生からのレポート>

日本事務局でインターンをしている佐野です。私は、海外インターンシップや交換留学で開発学を学ぶ中で、現地の人と近い存在である NGO に憧れを持つようになりました。その後、学問だけでなく NGO で実際に働いてみたいと思い、アイキャンのインターンに応募しました。

入職後、アイキャンでは、街頭募金活動を担当することになりましたが、当初は、事前準備や当日の運営をこなすだけで精一杯でした。参加するボランティアは一回きりで終わる人が殆どで、毎回人集めに苦労する中、どうにかして「また来たい」と思ってもらえるものにしなければと思うようになりました。

そこで、継続的に来てくれていた数人に、なぜ来てくれるのかを聞くと、圧倒的に多かったのが「楽しいから」という声でした。募金自体はフィリピンの子どもたちへのものだけけれど、そのためにも、まずは募金を集める人が楽しんでくれる環境を作らなければと思い、改善方法を考えました。

そして、参加者同士がもっと親しくなれるよう、毎回最初に交流の時間を取ったり、終了後は自由に事務所に残って歓談してもらったりするようになりました。また、自分が主導するのではなく、2回目以上の参加者がいる時は、「困ったことがあったらこの人に聞いて」と皆の前で言い、可能な限り参加者に任せるようにしました。すると、何度も来ている人が主体的に動くようになり、スタッフの指示がなくても参加者同士が声をかけ合って動く姿が見られるようになりました。

11月28日、過去最多となる45名のボランティアが集まりました。7月から継続的に参加する社会人の女性は、「私は街頭募金を月で一番楽しみにしている」と言ってくれました。また、10月に続いて今回も15人もの生徒を連れて来てくれた中学校の先生からは、「ここに来ると、普段あまり話さない子がすごく生き生きしている。大学生や社会人との交流も刺激となり、生徒たちが変わるきっかけになっている。」と言われ、参加者にとって、色んな人に出会い、学びを得られる場になっているのだと感じました。

この一年間で学んだのは、ボランティアの人と同じ目線で、一緒に活動を作り上げていくことの大切さです。自分一人ではなく、一緒に考え、活動してくれる人のお陰で、続けることができました。まもなくインターンを修了しますが、社会経験を経て力を伸ばし、いつかアイキャンに戻ってきたいと思います。



アイキャン日本事務局
佐野遥香 (さのはるか)
～プロフィール～
名古屋市立大学経済学部4年。ガーナでのインターン、オーストラリアへの留学を経て、2014年12月よりインターンとしてアイキャン勤務。

Project Site



●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者から一言】 月々1,000円からのご寄付で応援して下さるマンスリーパートナーを募集しています。詳細はお問合せください。

①災害の子どもたち(ドゥラグ)

11月16～20日

事業終了から1年後の評価



2014年10月に修了したシェルター事業の事後評価のため、56名の住民に聴き取りをしました。事業期間中、シェルター委員会役員を務めたクリスティーナさん(58歳)は、「以前、地域内を毎日歩き回って建設中の家をモニタリングしていたので、どこに誰が住んでいるか熟知しています。後に来た台風の時にも、避難所に誰が来ていないかすぐ分かり、避難するよう呼びかけました。」と語りました。

②紛争地の子どもたち(ピキット)

11月11～14日

目頃から危機管理を



紛争・災害の危機管理に関する研修が行われ、教師や村役員等20名が参加しました。緊急事態への村の対応方法や学校における子どもの保護政策について学んだ参加者からは、「紛争・災害が発生した時だけではなく、普段から危機管理体制を整えることが重要であり、しっかりと対策を行うことで、被害拡大を防げることを知った」(オディンさん/39歳)などの感想がありました。

今月の ICAN を増やす活動

国際理解教育事業

11月14日・21日・28日/名古屋

路上の子どもたちとスカイプで交流!

マニラの路上の子ども・若者たちと日本の若者が、スカイプを通して交流する活動を3回行い、計47名が参加しました。互いに質問し合い、理解を深めた参加者からは、「路上で生活するのは怖い、家族やアイキャンと過ごす時間が一番楽しい」と言っていたので、もっとアイキャンの活動が広がればいいなと思う。皆かわいくて笑顔が素敵だったので、スタディツアーで実際に会いに行きたい」などの感想がありました。



NGO 相談員事業

11月18日/名古屋

NGO への就職・転職セミナー

NGO への就職・転職を考えている方を対象としたセミナーを開催し、6名が参加しました。NGOの職員に求められる経験や資質、仕事のやりがい等についてお話をし、参加者からは、「教えていただいたことを踏まえ、今後の就職活動をより活発に行っていきたい」「良い部分だけでなく、大変な部分も伝えてくださり、より現実的にNGO職員のことを学びました」といった感想を頂きました。



今月の Topics

安倍総理夫人が路上の子どもたちを訪問

11月19日

安倍総理夫人と石川駐フィリピン大使夫人が、アイキャンがマニラ市で運営するドロップインセンター(一時保護施設)を訪れました。歌などを通して交流した路上の子どもたち18名からは、「一緒にお祈りをしたり、お話ができて嬉しかった」、「いつか日本に来てほしいと言ってくださったので、勉強をもっと頑張りたい」などの声が聞かれました。



今月の Media

- 11月2日 まにら新聞 一日事業地体験案内
- 11月16・23日 まにら新聞 チャリティコンサートの案内
- 11月20日 まにら新聞 安倍総理夫人が路上の子どもたちを訪問
- 11月22日 中日新聞(名古屋) 日比の子どもの絵手紙交流
- 11月30日 まにら新聞 マニラエクスプレスのチャリティコンサート収益を路上の子どもの保護施設に寄付

今月の ICAN なる

◎持田さん、生徒さんとアイキャンを繋げてくださり、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 持田崇さん

「自分ができることに心をこめて」

インタビュー:11月28日

私が教える幸田町立南部中学校の3年生は、2013年11月、フィリピンが大型台風で被災したことを新聞で知りました。そして、「何かしたい!」という思いから、自分たちに何が出来るか、どんな方法があるか、現地の人たちはどんな気持ちなのかということ、学年で何度も話し合いました。そんな中、生徒たちの純粋な気持ちと義援金を受け取ってくれたのがアイキャンでした。



1年後、アイキャン日本事務局の職員を学校に招き、台風被災地をはじめとしたフィリピンの現状やアイキャンの活動についてお話をいただきました。私を含め生徒たちが一番感じたことは、「自分たちにできることを、心をこめて行うこと」、そして、「やってあげるのではなく、ともに歩むという姿勢」の大切さです。

今年10月、念願だった街頭募金活動に、生徒たちと一緒に初めて参加することができました。生徒たちは、募金をしてくださる方からも、心がこもっている1円の重みや、小さなことでも心をこめて行動することの大切さを学びました。

私の行うマンスリーパートナーの寄付でできることは、困難に面しているフィリピンの子どもの数からすると微々たるものかもしれませんが、心をこめて送り続けたいと思います。「自分ができることに心をこめて、ともに歩いていく」という、素敵な「心」を教えてくださいましたアイキャンと、スタッフの皆さんに感謝しています。人と人を繋ぐのは、やはり「心」ですよ。